

迫る年末年始 危機感

12/12
東京

手薄な医療 分科会、崩壊を懸念

「このまま年末あり得ない」

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかるず、政府の対策分科会は11日、再三の対策を政府や自治体に迫った。「勝負の3週間」の結論は来週に示される見通しだが、現状のままで年末年始に「医療崩壊」が起きかねないと危機感を強く打ち出した形だ。政府の取り組みはなお及び腰で、医療界や専門家からは厳しい指摘が相次ぐ。

▼1面参照

時 刻

【3週間ほどの期間限定】
新型コロナウイルスの感染拡大により強い対策を。分科会がこう切り出し、対策メニューや示したのは11月20日。それから3週間後のこの日、分科会後の会見で尾身茂会長は「結果が出るにはまだ数日かかる」といつた、「求められる行動、対策がしっかりとできれば、3週間くらいすれば(感染状況が)下火になる」と語った。だが、今回の提言は、感染急増段階の「ステージ

高止まり、あるいは拡大が続く事態を想定した対策メニューだ。「高止まりは安心材料ではなく、心配材料。まだ(対策が)足りない」といふことだ」と述べた。

提言は、来週にも終わる「勝負の3週間」に敗れる可能性を想定し、先手を打つたとも言える。年末年始は1年で最も医療が手薄になり、さむなる強化が必要だ。

提言は、北海道を始め多くの人々行動自粛を求められることにへきえきしている事業者対策の早期の緩和を望む

政府、再二の提言に重い腰

人口10万人あたりの新規感染者の増減

12月4~10日と11月20~26日の差



北海道の場合(イメージ)

プラス 31.3人 プラス 25.7人

↓ 新規感染者の増減

-5.6人

分科会が示した現状の認識

11日の分科会後の尾身茂会長の会見資料から

医療機関

新型コロナ感染症の診療と通常医療との両立が困難

多くの人々

行動自粛を求められることにへきえきしている

事業者

対策の早期の緩和を望む

菅義偉首相は分科会終了後、11日午後、首相官邸で西村康稔経済再生相や田村憲久厚生労働相、赤羽一嘉国土交通相らを呼び、提言の内容について報告を受けた。首相はその場で「各地の知事とよく連携をとりて対応するよう」と指示した。首相はその後、官邸からインターネット動画中継サイトの番組に生出演。「何としてもこの(感染)拡大を防がなければならぬ」と語った。だが、自らが導

一方、直近1週間の新規感染者数を2週間前と比較すると、東京、大阪などで伸びは弱まっているが、感染のままで年末年始に「医療崩壊」が起きかねないと危機感を強く打ち出した形だ。政府の取り組みはなお及び腰で、医療界や専門家からは厳しい指摘が相次ぐ。

専門家組織は医療体制の現状を東京で「非常に厳しく」と評価した。飲食店などに時短営業などを要請し始めたのは大阪が11月27日、東京は28日。11月7日から要請を始めた北海道は3日間だけで高知、広島、京都など13都府県で、1日あたりの新規感染者が過去最高を更新した。人の移動は感染拡大のリスクとなる

が自立つ。12月8~10日の

3日間で東京、大阪などで伸

びは弱まっているが、感染

者が少なかった地方で急増

が自立つ。12月8~10日の

3日間で東京、大阪などで伸

びは弱まっているが、感染

者が少なかった地方で急増</p